



上：象のホネ重いー



題字「ほねほねボード」前田路団員 作
 ホネホネ団通信 17号 2012年9月30日発行
 なにわホネホネ団事務局
 〒546-0034
 大阪市東住吉区长居公園 1-23 大阪市立自然史博物館
 TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225
 wadat@mus-nh.city.osaka.jp

活動報告

出張ホネホネ @多摩六都科学館



そうそう、関東だからと油断していたら、「オデット姫」ことユカ団員がちやつかり紛れ込んでいてびっくり。なんでも春休みにご親戚のところに来ていて申し込んだとか…。現地調達のスタッフとして同じ班の中でお手本になっていただきました。

乾

2012年3月24、25日に西東京市多摩六都科学館のホネホネ探検隊ワークショップに参加しました。昨年3月11日の東日本大震災で中止になったイベントのリベンジです。24日(土曜日)は、午後1時半から団長によるホネホネ探検隊のお話し会。小学校低学年が中心で親子合わせで40名の参加者。背中に大きく「ホネ」と気合いの入った白衣をまとった団長が、背骨のある動物、ない動物の比較、ホネの意味などについて、小学生にわかるようにホワイトボードにさくさく絵を描いて説明。リアル系ぬいぐるみや実物のホネを手品のように次々と出しては触ってもらい、子供たちの関心を集中させるテクニクはお手のもの。ホームから運んできた実物の骨は、ライオン・ウマ・ニホンジカの頭骨、アジアゾウの大腿骨、ウズラ・ハツカネズミ・アカネズミ・アオダイショウの全身骨格。ニジ団員、金魚団員と私が猫の手部隊。休み時間はゾウの大腿骨がえらく人気の記念写真コーナーになりました。この日の最後はタヌキの頭骨のお面作りで、午後4時に終了しました。

久保 団員の叔母

翌日25日(日曜日)は、午前10時半からスタートの手羽先標本作製ワークショップ。参加者は年長小学生14名。手羽先が人数より多い目に準備されていたので、若干名の大人も飛び入り参加されました。手順はいつも通り、翼の構造の説明から始まって、キッチン鋏で肉とり↓茹でて↓パイプスルー処理・水洗↓肉とり↓漂白(過酸化水素水4倍希釈液)・水洗↓乾燥↓板に張り付け。1時間の漂白時間中に板に黒塗料をスプレーします。貼り付けはグルーガンでちやつちやつと。六都館の方もお手伝いいただきサクサク進んで予定通り午後3時に終了。販促コーナーではニジ店長の営業活動でホネホネ探検隊シリーズや、鳥骨格標本作製本、豚足本がそれなりに売れました。

春休みを利用して、いとこ達を誘って行った東京のワークショップ。私は、二日連続行った。手羽先はいとこのお母さんの方がとても肉がとれていてきれいだった。私は爪が一つとれてしまった。弟は象の骨を気に入ったみたいだ。

久保



活動報告

海辺の環境教育フォーラム

3. アクアマリンふくしま

団長が南三陸町のフォーラムでお会いした方のきつかけで海辺の環境フォーラムに参加することとなりました。2012年の開催地は2011年3月11日の震災から約4ヶ月、異例の速さで7月15日に再開館した、アクアマリンふくしまです。遠征団の出動です。わたくし、金魚界の人間からすると金魚を常設展示をしている唯一の水族館ということで、聖地という認識であります。6月8日はイベントとして館内の蛇の目ビーチでBBQ

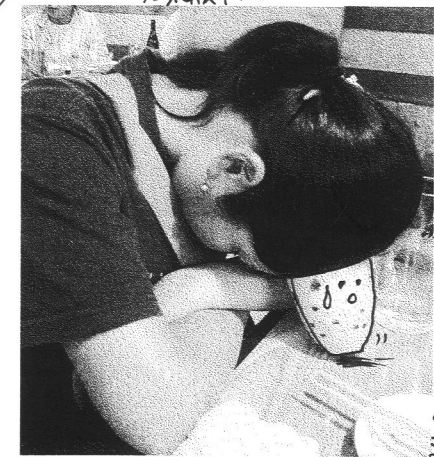
いしてくる方が見つかりました、大阪の村田さん。とても良い人でした。(下右)

夜はフォーラム参加者さんとの親睦会です。たくさん豪華なバイキング形式。有名な、阿部館長さんの魚の解体ショー、そしてコスプレ大会始まりマース。風花さんは琵琶湖博からお借りした噂のシャケ！そして乾き団んは○○！団長は若い男をナンパしていました。：うそです。(下左)

そして夜は大水槽前で寝袋持参でお泊り会。9日はシンポジウムが朝から行われ、お昼には参加者同士のワークショップやミーティング。そして夜は交流会。ギョスプレショー。10日は本番、海辺の環境フォーラム参加者の内応募したチームがブースを作り一般のお客様さんへ海の体験プログラムを提供する「子ども海の日」。朝から夕方まで盛り上がりました。

6月9日

前日から大水槽前お泊り参加していたのは、乾さんとニジさん。私と団長、そして風花さんは親睦会からの参加。ブースを出すグループがステージでアピールするための準備を一生懸命やっているところ。(下)お手伝



これを通らねばアクアマリンに来た意味がないというほどの見所の一つ。三角のトンネル水槽です。(右)宴も惜しみながら終わり、ホテルへ帰っていきました。でもまだ寝ません。街に繰り出し、地酒を飲み、団長はおチョコの上にオデコを乗せて寝ました。(左)

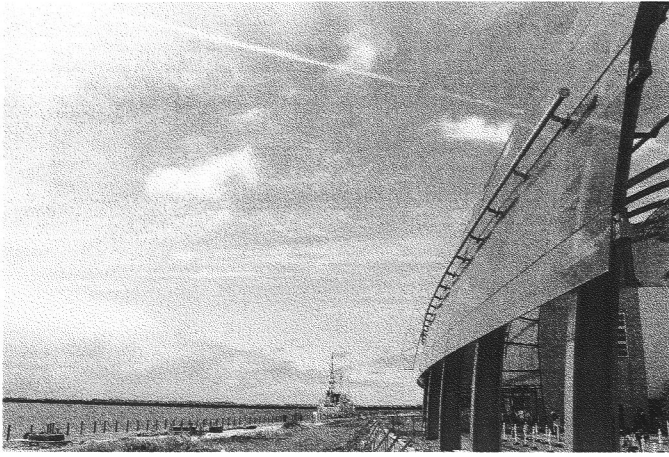
ウミガメコスプレ

ゲキオケステータス

しゃけ風花

絶妙なバランス...

30分



6月10日 WS本番

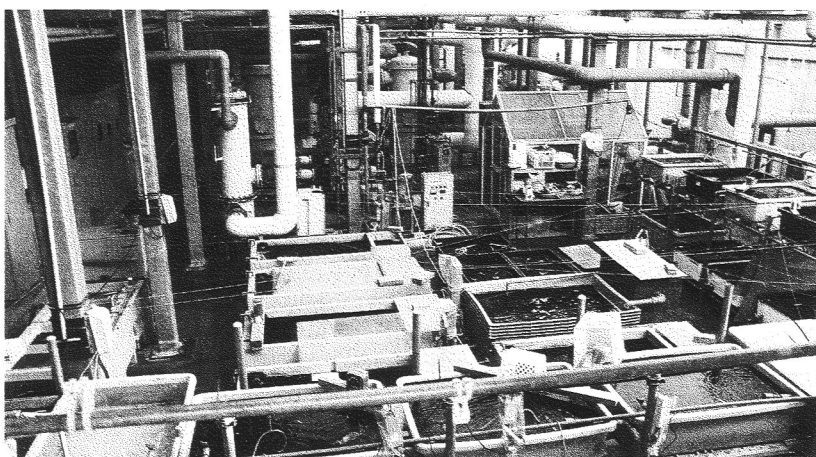
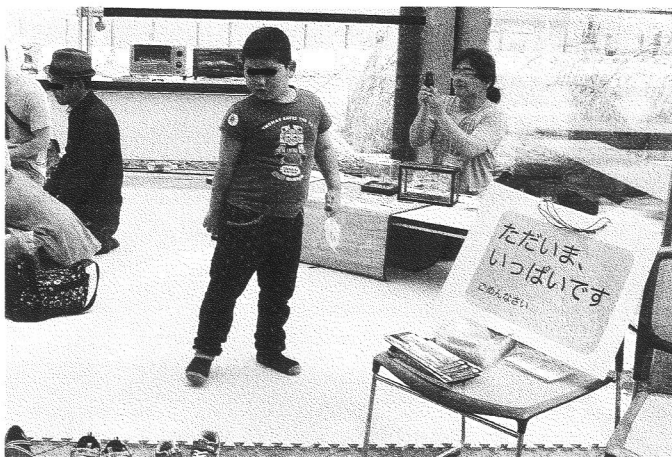
ホテルからアクアマリンふくしまに行く途中、怪しいお店を発見。でもここ飲みに来たい！ 今度福島来る機会にはぜひ行こうと誓った7人でありました。(右) 団長、風花さん、ニジさん、乾さん、佐久間さん、五月女さん、私。(上右) 到着して、館が開くまで時間があつたのでのんびりしていました。五月女さん「あっ！」 団長「あ〜」… 多分飛行機を見つけたんだと思います(上左) (上左)

ワークショップでなにわホネホネ団のプー

スはすごい賑わいでした。(次頁上段右) お昼休憩もろくに取れず、いつものこれ！ 出ました！。(次頁上段左) ただいまいっぱいです看板。大阪の村田さんも大健闘、本当に助かりました。ありがとうございます。子供たちはお絵かき真剣に書いてくれます。佐久間さんも子供相手に大奮闘。ニジさんは危険がいっぱいのトースター係、けが人一人も出

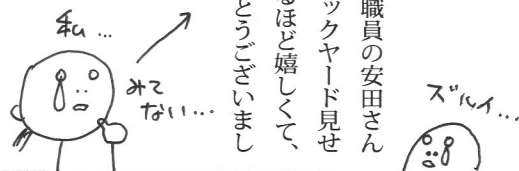


ア 373211 = ふくしまの 7くらした = 品種 梅下アリス。一番人気でした。



阿久津

ず、お疲れさまでした。
そして閉会式。帰る間に職員の安田さんにな、な、なんと！金魚のバックヤード見せてくれました。(左)涙が出るほど嬉しくて、たまらなかったです。ありがとうございました！
そして帰路。いざ東京へ。帰りの電車で飲む 食べる 帰りのバスで飲む 幸福感 団長ハウスで飲む 食幸笑 そんな福島遠征でした。



活動報告

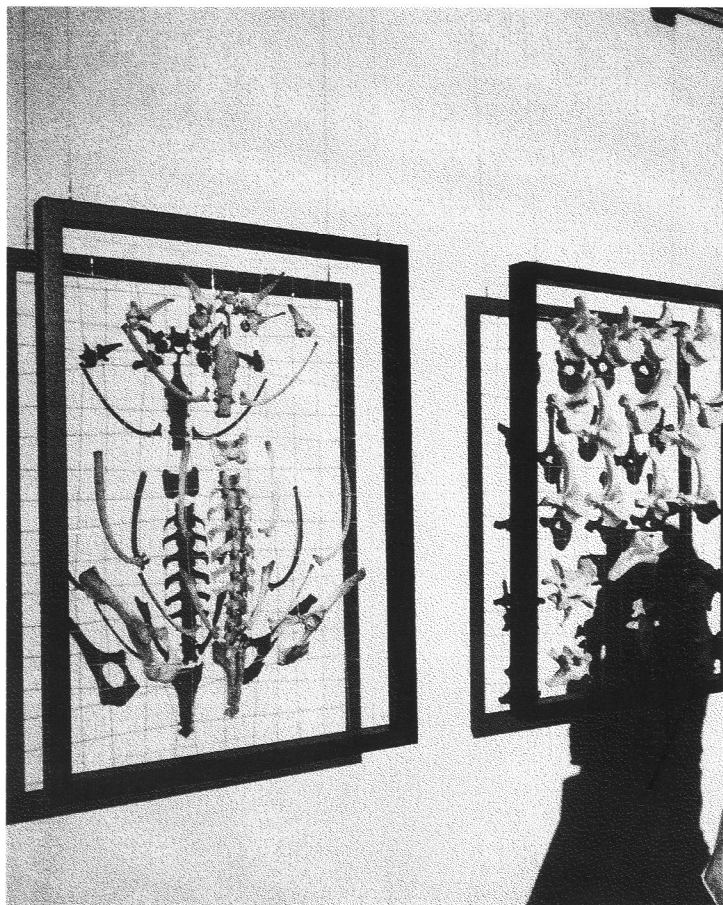
特別展示「生きる形」見学

東京大学総合研究博物館の東京大学伊藤国際学術研究センターで開催されている特別展示「生きる形」を見学してきました。コンパクトな展示ながら、とても見ごたえがありました。ただし、博物館の特別展というよりは、美術系の展覧会といった雰囲気でした。

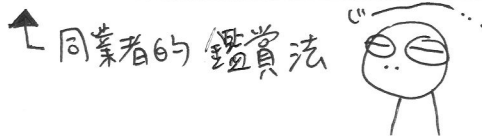


まずは黒い木枠にテグスで固定して展示された大量のホネホネホネ。ただし解説などは一切ありません。何のホネなのかどういつ

た由来なのかはもちろんタイトルも無し。テグスの網に宙吊りにされ、時に枠から飛び出すホネたちは存在感たっぷりです。生前のとおりの交連骨格標本もあれば、一つ一つのホネがわかりやすいようにずらりと並べたもの、オブジェ的に組み合わせられたものなどさまざまです。ホネホネ団的には死骸が残っていて、「ちゃんとカリカリしないと」とか、脂が抜けきつていなくて「もう一回漬直しだな」とか、緑色に変色しているのを見て「水に浸けっ放しにしておいたな」と



上：アートな感じにディスプレイされたホネ



右：暗闇に浮かびあがる頭骨たち



いった視点でも楽しめました。組立はホットボンドとテグスを使っているようです。特別展示が終わったら分解して収納するのでしょうか。



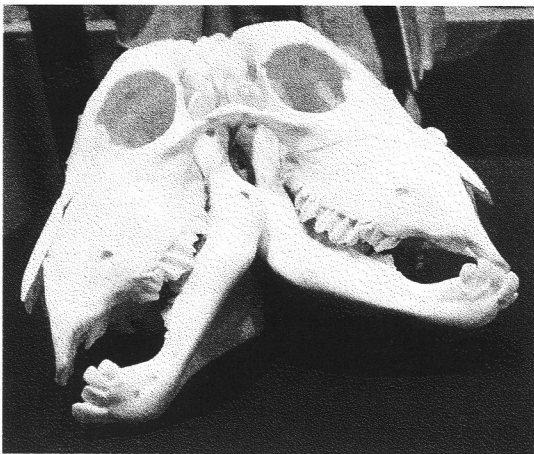
ちよつと奥まった薄暗いスペースにはずらつと頭骨が並べてあります。明かりは明滅する照明を仕込んだ3つの頭骨。結束バンドで背骨つぼくした配線がおしゃれです。薄暗い中目を凝らしてみると、並んでいるのは有蹄類とワニばかり(そしてゾウが一つ)なのは何か意味があるのだろうか。周囲の壁には

人体と動物のホネが融合した写真が飾られています。合成写真ではなく、ヒトの体にプロジェクターでホネの写真を投影して撮影したもののようなです。(ドットが見えているものがあつたので)



ぐるつとまわつて反対側には色々な種類

右：奇形のウシ頭骨



のニワトリの剥製が大量に並んでいて壮観です。古いものらしく、トサカの先端が折れているものがいくつかありました。断面を見ると人工物のようなです。それぞれ形が違うし、何か芯が見えたので、型取りして口ウで置き換えたのかもしれない。肉質の部分の境目には羽毛を植えているようにも見えます。もしそうなら職人芸ですね。そして奇形の牛の仔？胎児？の頭骨と忠犬ハチ公の内臓の液浸標本も展示されています。ハチの心臓の中のフィラリアも見ることができます。



コミュニケーションセンターにて展示図録を購入しました。昼食後にパラパラ眺めていると、何か見えないモノが載っている…調べてみるともう一つ展示室があるじゃないですか！自分を責めても後の祭り、もう時間がありません。残念ながら光る脳エノキみたいなのは見逃してしまいました。平日の午前中だったので空いているだろうと思っていたのですが、美術系の大学生と思われる方々がたくさんいて、熱心にスケッチしていました。そんな中でオッサンの私は浮きまくりで、焦りがあつたのかもしれない。それはさておき、この展示会の図録は非常に豪華です。展示より力が入っている気がします。東京大学の博物館は今回が初めてですが、ゆっくり見学する時間が無かつたのが残念です。今回は休館日でしたが、次に機会があれば小石川分館の常設展示「驚異の部屋」も見に行きたい

ものです。

佐竹

主人を待つ"コマンド"が解除できない犬... 生物としてはいかになにかと。 114公って やきとれおしい食い... 串が束はって 死んだら？ ホント？ 都市伝説？



「生きる形」

東京大学総合博物館

河部壮一郎・松岡象一郎・山田昭順・遠藤秀紀 著

「生きる形」

東京大学総合博物館の「生きる形」展は終わってしまいましたが、図録は、東京大学の

本郷キャンパス赤門北隣のコミュニケーションセンターで売っています。他では買えない

ようなので、東京に行った折には微妙な感じの東大グッズと併せて、お土産にいかがでしょう

か。普通の博物館の展示解説書と違って、まるで美術の展示会のカタログのようです。展示物の解説はまったく無く、資料的な

価値は薄いです。しかし写真が美しく文章は面白く、展示よりも力が入っているのではな

いかと思われ非常に濃い内容です。イモリの透明標本がキュート！生物系のアートが

好きな方は是非どうぞ。お勧めしておいて何ですが、いくらで買ったのかさっぱり思い出

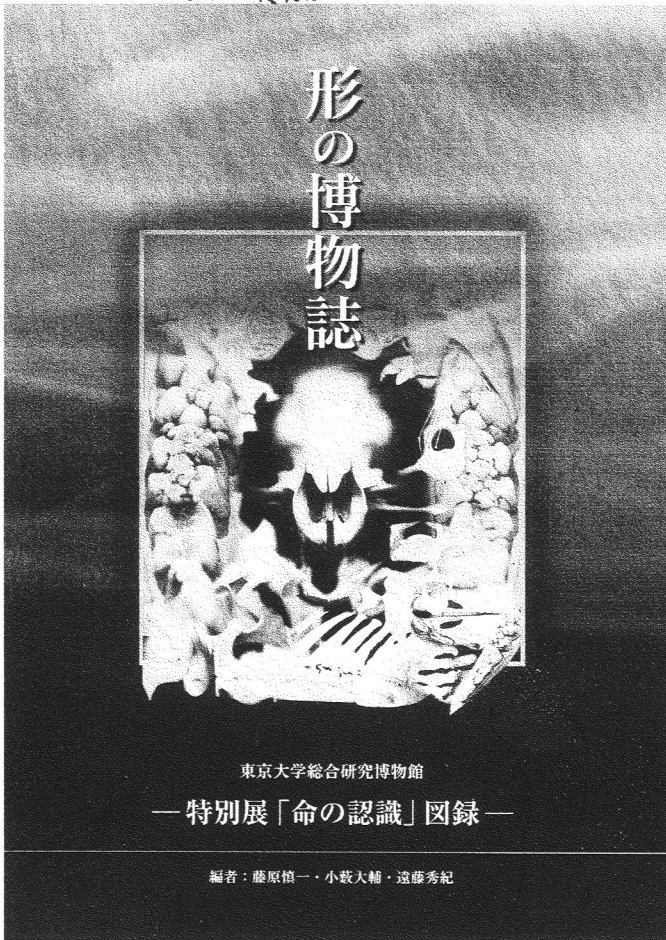
せません。そんなに高価ではなかったと思う

佐竹

アートなの？ 科学の展示なの？
「ちもどい、ちなび、ジミョー」

あえて使えないかんにじい？

どういうの??

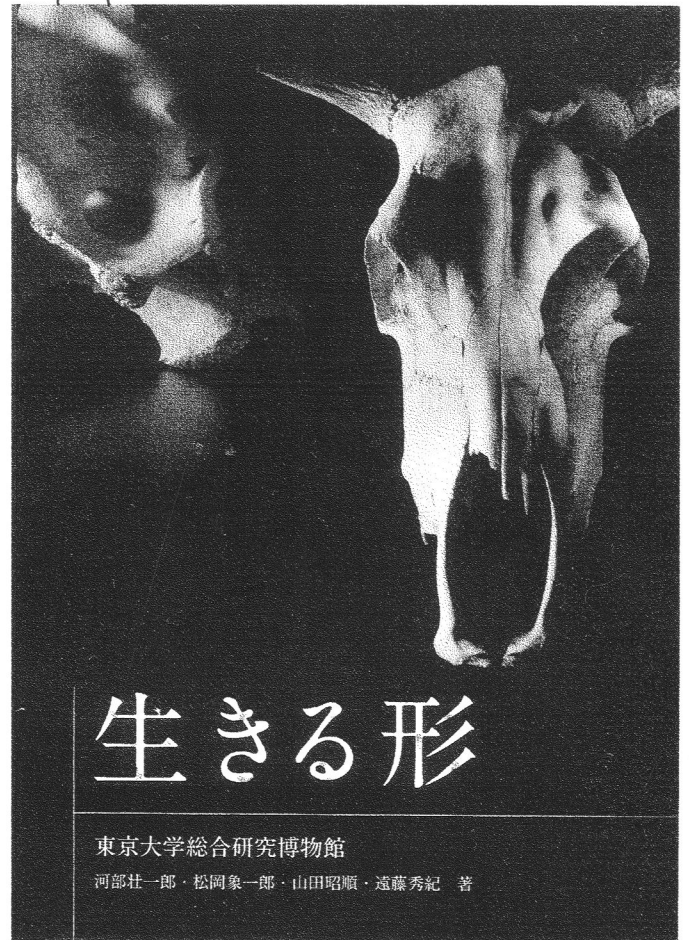


形の博物誌

東京大学総合研究博物館

—特別展「命の認識」図録—

編者：藤原慎一・小藪大輔・遠藤秀紀



生きる形

東京大学総合研究博物館

河部壮一郎・松岡象一郎・山田昭順・遠藤秀紀 著

なにかいという感じが多し。自分で感じよう!! わかれ!! ところか。



「形の博物誌」

東京大学総合博物館

—特別展「命の認識展」図録—

藤原慎一・小藪大輔・遠藤秀紀 [編]

販売価格 3,000円 (税込み)

佐竹

「生きる形」と比べるとずっと生物学よりの内容になっています。ちょっと生々しい写真も載っています。哺乳類の骨格について部位ごとに機能と構造をざっと解説しています。運動機能については肘を取り上げて、骨格と筋肉をわかりやすく説明しています。また、頭骨、前腕、骨盤について、いろいろな種類の骨格をずらりと並べた図解写真集は圧巻です。特に頭骨の写真は豊富で、成長変化や、性的二型にもちよつと触れています。まるで「鳥の骨探」の哺乳類版です。これだけの標本をそろえる労力を考えると、とてもお買い得な一冊といえるでしょう。

「形の博物誌」

活動報告

ホネホネデザフェス遠征

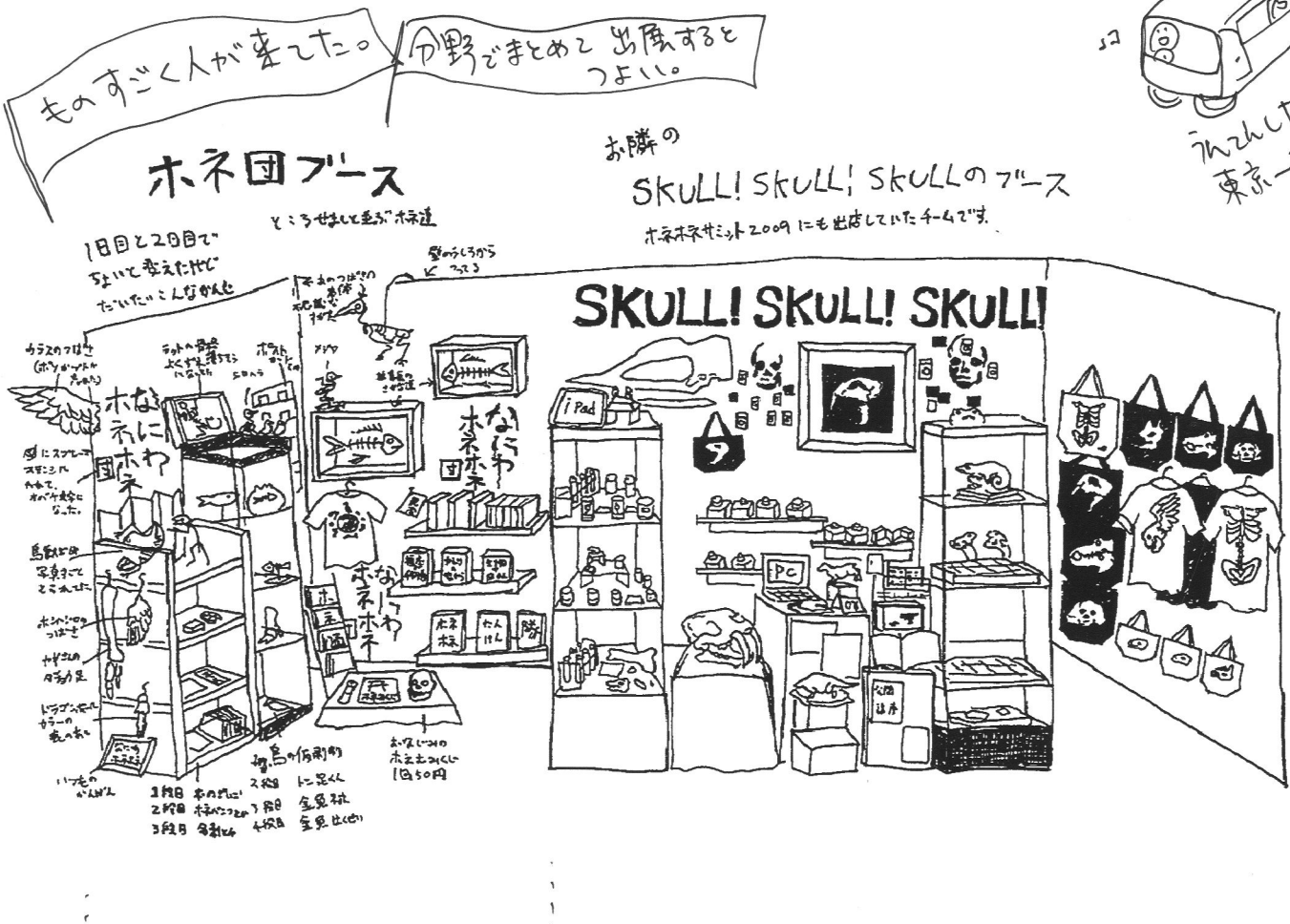
5月12〜13日デザインフェスに出店しました。ことの発端は、ヤギ団員。

myホネを持って行って東京で、見せびらかさないか?というお誘いを受けて、なんか楽しそう!と思って二つ返事でメンバーに入りました。参加メンバーはヤギ店長(Iさん)、金魚さん(Aさん)、とり(私)、団長。東京組は、とらふづく(Hくん)。このメンバーを見てなんとなく不安を感じる人もいます。(正しい)

準備から片付けまで、周りを巻き込むドタバタでんやわんやでした。夜7時くらいに大阪から車に荷物を積み込み、皆で乗ってワイワイしながら移動しました。道中凄く楽しかった気持ちが残っています。(今この文を書いているのは9月で4ヶ月前の記憶があんまり残っていない。ごめんなさい。)現地に到着して準備開始!(午前3時くらい)皆眠たくてフラフラで、準備してました。私は途中で寝てしまつて起きたら、ブースが出来上がってました。ごめんなさい。お隣のブース(skullskullskull)の皆さんも起きたら、何時の間にか勢ぞろいでした。寝不足でフラフラのまま、開始時間になりお客さんがフラフラやってきました。

開始から終わりまで、ブースの中は常に満

員状態でエライ忙しかったです。自然史フェスで、ホネブースの店番するときとは違い、博物館や生き物にあまり接点のないお客さんが多く、質問やリアクションが凄く新鮮でした。こういうことに興味はあるけど、どこにいけば詳しく知れるのか分からなくて今まで接点の無かった人達がたくさん来てくれたように思います。そんな中たまに、ホネ団のことを知っている人もいました。知っている人は知っているようです。不思議。個人でホネ取りに挑戦していた人も多くいて、ホネ取りのコツとかいろいろ質問されました。そんな人達にマニュアル本が凄く売れました! 標本は売らないけど、標本を作る技術、知識を売つてますー!と、うたい文句にしてました。



ここまでホネ団

頭骨モ4-7の ス-川おやじ(集団)

ホネホネ団の公式ウェブサイトができました！



click!



主なコンテンツ

- ホネホネ団とは
- 入団・見学について
- ホネホネ団通信バックナンバー
- ホネホネパブリッシング入口
- 死体に出会ったら
- 団員の個人ページ紹介
- 関連グッズ紹介



ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>

ちなみに今回、なにわホネホネ団という名前で出店したけれど、展示したホネ達はみんな個人の私物で、ホネ団公式の活動ではないです。改善点は多々ありますが、いろんな収穫があった東京遠征でした！次回も挑戦してみたいなっと思っております。

浜口とり

めっちゃ売れました。



¥10.50のところを3冊セットで買うと ¥7,000

活動の成果

2011年5~8月



ヒメウミイラ + ミイラ

2012年5月6日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時~21時

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：29名

(内、見学者8名 ↓新入団なし)

内容：タヌキ2体、ダチョウ1体、シロハラ1体、ツグミ1体、オオヨシキリ1体、シジュウカラ1体、ハシブトガラス1体の皮剥き。シカのホネ洗い・皮なめし。タヌキなどのホネの再処理準備。

備考：ダチョウ祭り。ダチョウは1羽だけで祭りになる。ダチョウは皮とホネに。次回皮を洗う予定。

2012年6月23日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時~21時

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：34名

(内、見学者8名 ↓新入団2名)

内容：アナグマ2体、ハクビシン1体、ヌー

トリア1体、イノシシ頭1体、カワウ1体、ヒヨドリ1体、シロハラ1体、ハシボソガラス1体、ハシブトガラス1体の皮剥き。腐ったヒメウミイラの処理。ダチョウ1体の皮の処理。アカミミガメ2体のホネ作り。ホネの整理。

備考：同志社女子大から取材班がやってきた。何にするのか分からないけど、インタビューしながらビデオを回していた。ディレクター、カメラマン、音声、記録。なぜか照明がいなくて、充実の4人編成。

2012年7月15日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時~20時

担当：団長、事務局長

参加者数：21名

(内、見学者4名 ↓新入団なし)

内容：ライオン1体、ハクビシン1体、エミュー1体の皮剥き。シマウマ1体の皮の処理。

備考：大物処理の日。2日前に突然やってきたライオンも処理。

2012年7月18日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室ほか

時間：10時~20時

担当：団長、顧問

参加者数：15名

内容：キリン1体の皮剥き。シマウマ1体の皮の処理。

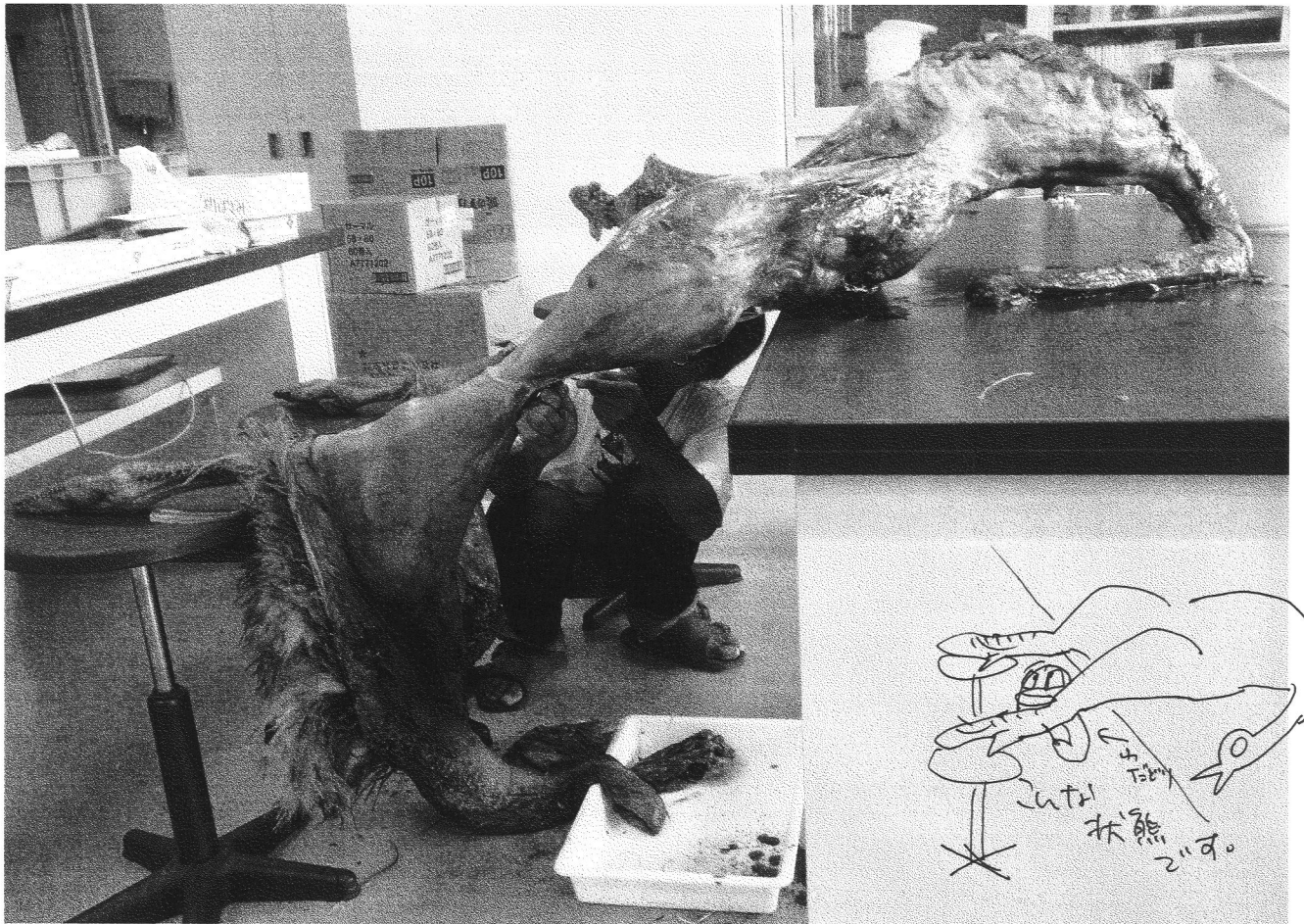
備考：大物がきたので、緊急告知をして集

大物のつぎ。

こういうのき21日があ

みえないけど。学内専用番組だからいい。

右:セクシーなボディーラインのエミューさん



合。平日なのにこの人数。



2012年7月28日

場所:大阪市立自然史博物館 実習室

時間:10時~21時

担当:副団長、事務局長

参加者数:26名

(内、見学者4名 ↓新入団2名)

内容:タヌキ1体、ネコ1体、テン1体、

イタチ1体、メジロ1体、カワラヒワ1体、

オオミズナギドリ1体、ハシボソミズナギドリ

4体の皮剥き。ダチョウパーツの処理。キ

リン首と頭の皮の処理。アカミミガメ1体の

ホネ作り。エランド骨のかりかり。

備考:今日はハチ展オープンの日で、セミ

ナーや展示見学会などがあつたので、途中で

それに参加する人も。行きも帰りもGLAY
に振り回された日でもある。



2012年8月19日

場所:大阪市立自然史博物館 実習室

時間:10時~21時

担当:団長、事務局長

参加者数:32名

(内、見学者10名 ↓新入団2名)

内容:ハシブトガラス5体、イタチ1体、ネ

コ1体の皮剥き。タヌキ3体、アナグマ2体、

ハクビシン2体、イタチ1体、ネコ1体、シ

カ頭4つ、イノシシ頭1つの皮なめし。

備考:鳥はカラス剥きの日。あとは皮皮団が

活動。



広告

— 好評発売中! — 『猫にもできる豚足くん』

乾公正 著
2008年刊 12ページ
簡易製本 価格300円

わかりやすい!



かっこいい!

大阪自然史のサイトでも買えます!



2011年5月～2011年8月に入団試験に合格した方々です。

新入団員紹介

●団員 No.222 小田 さん

●団員 No.223 神例 さん

●団員 No.224 古森 さん

●団員 No.225 藤村 さん

●団員 No.226 江村 さん

●団員 No.227 良知 さん




お名前： 小田



画家、イラストレーター、
大学教員をやり終り、
仕事は古生物の
復元画を描いていて、
図鑑などの出版物や、
T. Rex skull. 博物館のガラスク展示
に使用されています。
骨の絵もたくさん描いています。

お名前： 江村

人形作家としています。
動物の身体構造を勉強して
作品に取り入れたいと思っています。
イルカやクジラが好きです。



お名前： 神例


好きなのは動物はアヒル、カラス、
カラスやハビ、カエル等をわけるように
なりたいです。カエルのコインケースを
作りたいです。カラスのはくせいも
欲しいです。ニワトリを2羽飼って
います♡だれか欲しい人を探したい☆

お名前： 古森

東大阪市在住
中学校 理科の教師です。
化学、物理、天体から生物へと
ハニを広がりたいと思っています。
よろしくお願いします。

お名前： 良知

東京造形大学で骨研や、
骨に詳しくなると、デザイン
等に取り入れたいと思ってます。
鹿が好きです。
特にバンビが大好きです。



お名前： 藤村

成安造形大学4年生です。
動物に興味があり、ホネ団に
入団することになりました。
活動を通して動物の体を
もっと知りたと思います。
自分の絵に活かせるようにがんばります。
よろしくお願いします。

このころ、作家さんとか、
画家さんとか、
増えてきました。ようこそ
ホネホネ団

むしろおもしろい正統派

やっちまった
失敗を一言録し
後世にのこさそう。

懺悔の部屋

哀れな姿になった標本にごめんなさいするページ

9月9日(日) ホネ団 ^{トリモ}鳥剥きの日



たくさんの鳥が出ている中、とてもキレイなアオバトを1番に選んで、
よろこんでいました。ワタ"さんは、「アオバトとエゾ"メジロは失敗を
ゆるしません。」と始めに言っていました、
それにもかかわらず、アオバトを首の皮1枚ならぬ1本にしてしまいました。
どうしてそうなってしまったかと言うと(言いわけきいて下さい。)
もと致、首の後ろに穴があいていました。それがわかっていたのに、
この状態を維持してフラフラしていたから



頭の重みで穴を広げてしまったようです。

私は、いつも鳥を剥きながら、周りに楽しそう
な事があると、鳥をもったまま、ウロウロするくせが
あるみたいです。
そのせいで今回のアオバト事件をおこしてしまいました。

もう、鳥をもったままウロウロ、フラフラしません。鳥によけいなダメージをあたえず
周りに気をちらしません。自分の鳥に集中します、すみませんでした。



← かわらして
← つながてる。



← なんとかつなげた
まま仕上げた

ア旨もすく99くら
難しかった。



— 縁無き衆生・迷える子羊募集中 —

活動日にやってしまった失敗を気に病んでいるあなた。

ホネ通で懺悔して楽になりませんか？

広告

— 好評発売中！ —

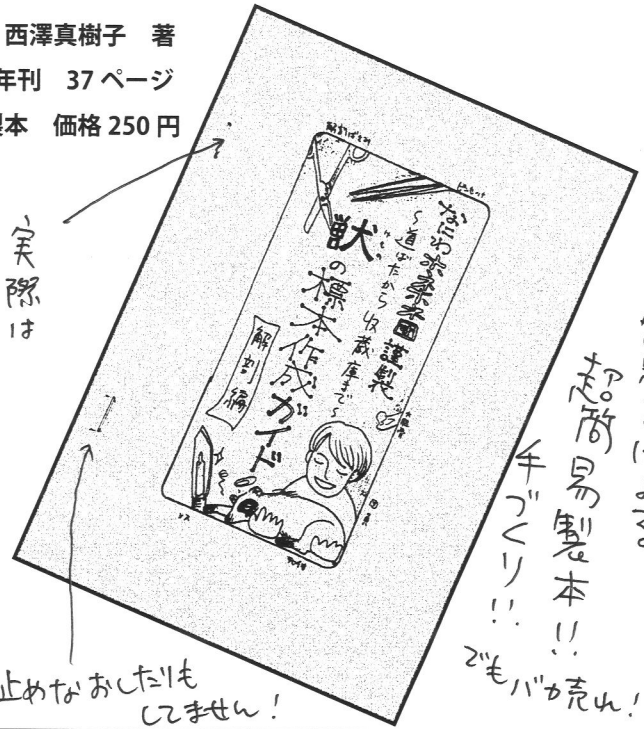
『獣の標本作成ガイド 解剖編』

～道ばたから収蔵庫まで～

団長 西澤真樹子 著

2005年刊 37ページ

簡易製本 価格 250円

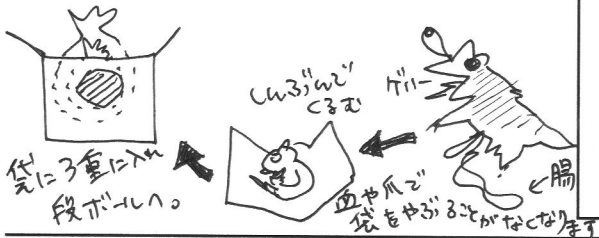


なにわホネホネ団からのお願い

死体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいにくるんでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。送ったり、持ち込んだりするときには、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いてたメモを同封することをお忘れなく！

お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館
http://www.mus-nh.city.osaka.jp
動物研究室 和田学芸員
wadat@mus-nh.city.osaka.jp



編集後記

この文章のタイトルは「編集後記」となっていますが、大抵は編集中に書いています。なぜなら、縮切を過ぎて原稿が集まらないからです。そのためにも原稿集めの愚痴ばかりになってしまいます。それ以外の話題のときは、編集作業前にあらかじめ書いておいたものがほとんどです。：タイトル変えた方がいいかもしれません。さて、今回の原稿集めでは、未完成の原稿を残したまま関東方面に高飛びされるという事案が発生しました。すいませんね、まるで遅筆な作家の逸話のようです。

秋から年末にかけては自然史フェスをはじめイベントが多くて原稿のネタには事欠かない季節です。なにやら鳥取でのイベントにも参加するようです。そして今年もホネホネ団は東北支援のワークショップに遠征します。昨年はお手伝いとして、消しゴムハンコをたくさん彫りましたが、今年は貝化石のレプリカを大量に作りました。これに好きな色をつけてストラップにしてもらおうというわけですね。プラスチック製なので絵の具がのるように入塗りをしたのですがこれが意外と手間取りました。床一面に並べて乾燥させるのですが、何の工房か内職かといった様子です。報告をかねて自然史フェスでもワークショップを行うようなので、興味のある方はちょっと覗いてみてください。

記事募集
ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持っていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関すること全般ですが、例えば：活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見た行った、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願いたします。
了了承ください

ホネホネ団通信編集 佐竹敦司
gcd03100@nifty.ne.jp